

交通量調査 (15路線) (17カ所で)

富士・鷹岡線が通過車両トップ

富士市は、年1回夏休みの時期に市内幹線道路の交通量調査を実施しています。

ことしは、7月24日午前7時から午後7時までの12時間、72人の調査員によって15路線の17カ所で行いました。調査の結果は、15路線の通過車両は、のべ12万8,574台を数え、このうち乗用車が全体の59.5%で7万6,417台、トラックが全体の40.5%にあたる5万2,157台も通過しており、乗用車が約20%多く走っていることがわかりました。

また、これを通過方向別に調べてみますと、東西に走る車が全体の57.7%で7万4,245台南北が42.3%にあたる5万4,329台で、東西を走る車が15%強多くなっています。

さらに、50年度とくらべ著しく増加をみている路線は、富士鷹岡線（水戸島下地点）が69%増の6,914台でトップ。ついで比奈出口線（厚原東地点）が53%増の4,756台、吉原



沼津線（今泉地点）が26%増の8,867台、吉原大淵線（伝法地点）が24%増の1万683台、5番目が臨港富士線（伝法地点）で15%増の1万475台の順となっており、いずれも交通量は満杯路線で今後道路の拡幅および幹線主要道路の整備が急がれています。

初の火災実験 貴重なデータを収集

めずらしい「火災実験」が、このほど市内蓼原の東芝富士工場敷地内で行われました。

これは、市消防本部が初めての試みとして実施したもので、建物火災の場合、火の流れがどのように移行していくかを実際、目でみてもらうため、同工場の協力で老朽化した建物の提供を受けて実験したものです。

使われた建物は、スレートぶき木造平家168平方メートル1棟（長屋4世帯分）。

まず最初、居間の石油ストーブに点火、畳の上にストーブを倒してか

ら秒読みが行われ、障子、カーテンに燃えうつり、それから天井などに火がつくまで僅かに13分。このときの最高温度は1200度Cを記録し、爆音と共に建物はたちまち火の海と化し、15分後には全焼しました。

市消防本部では、データの分析を急いでいますが、この実験でハッキリしたことは、防災加工のカーテンは、くすぶるだけですぐに火がつかないことが判り、また屋内が整理整頓されていれば、延焼時間を多少でも伸ばせることができます…と生きた教訓として語ってくれました。



【火災実験で貴重なデータを】



生存証明の手続きについて

【こえ】 毎年のごとですが、各年金の現況届を出すため、生存証明をもらいに市役所へ行きます。

市役所まで遠い老人は、バスを利用し、その乗り降りに危険が伴います。又窓口が混雑していますので、1日かかることも多々あります。

これらを考慮し、各地域で事務手続きができるよう改善をお願いいたします。（元吉原 Kさん）

【こたえ】 ご要望の件につきましては毎年ご足労をおかけいたしております。

この生存証明は、年末から3月頃までに集中しますので窓口の混雑を考えたとき、どうしても解決しなくてはならない問題です。さいわい今年中には各公民館で行えるように検討中ですので、もうしばらく時間をいただきたいと思えます。従って準備ができしだいお知らせいたしますのでご承知下さい。（市民課）